

87 クレッチマー画 『諸民族の服装』104枚の石版画による起源から19世紀までの変遷。  
K.ロールバッハによる解説付き

**Kretschmer, Albert. Die Trachten der Völker** vom Beginn der Geschichte bis zum 19. Jahrhundert in 104 Tafeln zusammengestellt, gezeichnet und lithographiert. Albert Kretschmer mit text von Karl Rohrbach. 3 ed. Leipzig, Generaldebit, (1860—1864) 1906, 352p. 104 col. plates 32.2×26.4cm <383, 13—K>  
Hiler p. 510 Colas 1668 Lipp. 76 (1882, 2 ed.)

本書は、世界の諸民族の服装を図解した民族服装図鑑である。ただし、これには、インド人、中国人、日本人、アフリカ人、アメリカインディアンは含まれていない。彩色の施された美しい巧みな図版は、服装の理解を明確にさせている。典拠となる重要な資料は、本文中にも挙げているが、本書を完成するまでには、古代・中世の膨大な資料を調査収集し、更に比較分析が重ねられた。また絵画に現われた服装についてもできるだけ現物に即して描いてある。解説はロールバッハ（?—1889）が担当しており、詳細な文化史的考察は省略され、民族服の歴史を理解する上で必要な諸事実にとどめてある。著者は「服装の歴史には厳粛で壮大な思想が秘められているが、この分野についての研究は今日あまりなされておらず、携わる研究者の今後の出現が待たれる」と述べている。

民族服は多種多様で、その外貌は一見、偶発的に見受けられるが、様々な地域の多民族と生活を共にしたり、交渉をもつことにより、これらの服装の間には内的条件を基盤として精神的な関連性が共通に存在しており、ここにも一つの法則が支配していることがうかがえる。

本書は、事項索引を兼ねた内容目次と解説及び図版から成っている。解説の文化史序説では、文化史概論、服装の起源、用語の説明があり、次いで古代、中世、近世の三部に大別して記されている。古代（エジプト人、古代アジア人、ヘブライ人、ペルシャ人、東欧民族、ギリシャ人、ローマ人、北欧南欧民族）、中世（ビザンティウムの住民、アングロ・サクソン人、11世紀から15世紀までのフランス、ドイツ、イタリア、イギリス、スペインなどの人々）、近世（16世紀から19世紀までの西欧各地とロシア、ポーランド、ハンガリア、トルコなどの人々、ムーア人、メキシコ人）と、時代別、国別に章を分け、それぞれの民族が着用した衣服とその付属品、武具甲冑、また身分・階級による様々な服装、及び服装と関連のある装飾品や道具を示している。また典拠とした資料とその異説、実物の所在地などにも触れている。

クレッチマー（1825—1891）は、ベルリン王立宮廷劇場の画家で、彼の著作は後代の文献にもしばしば引用されていて、その評価の高いことが知られている。本書は第3版であるが、初版は1860年より1864年までに刊行され、図版は100枚を取め、第2版は1882年刊行、図版も104枚に増えている。第3版は2版を再版したもの。（平井）